

健康長寿に係るイチオシ事業 三芳町 ～フレイル予防につながるささえあいプロジェクト～

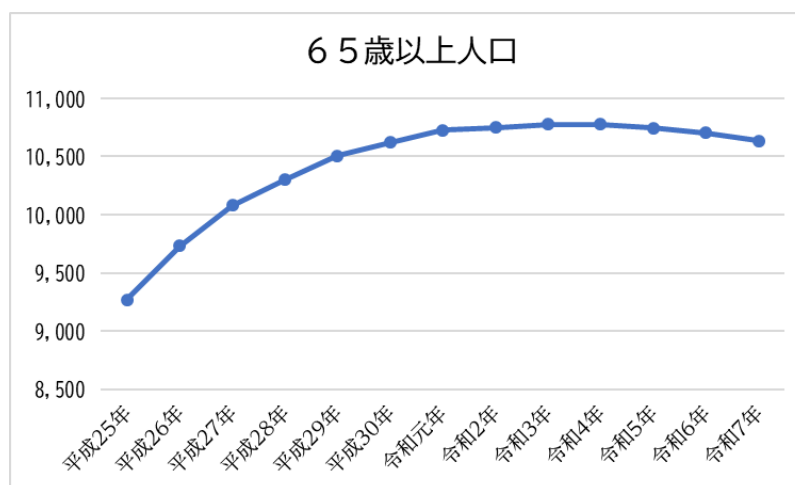
(1) 事業概要

平成 27 年度から平成 29 年度の 3 ヶ年で埼玉県健康長寿埼玉モデル普及促進事業補助金の交付を受け実施した「みよし野菜 食べて！歩いて！健康長寿」事業（以下「三芳町健康長寿事業」という。）は、食育の推進と継続的な運動習慣の確立から、住民の健康寿命の延伸を期待した事業である（事業参加者 2,102 人）。なかでも運動習慣の確立においては、通信機能付き活動量計の貸与による毎日 1 万歩運動の他に筋力アップ講座や地域運動講座など、運動に関する講座を 3 ヶ年で 63 講座 167 回開催（延べ参加者 6,131 人）した。これらの講座では可能な限り体力測定を実施し、測定結果の分析から効果の高い講座の運営プログラムの確立を目指した。また講座参加者の平均年齢は 70 歳を超えていることから、平成 30 年度は健康長寿事業において確立されたプログラムを踏襲し「身体的フレイル予防」に着目した事業の構築を目指した。

フレイルの予防には、身体的・精神的・社会的と多側面に総合的に働きかける必要があるとされている。しかし保健部門単独で実施することは困難であり、介護や福祉といった関係部門と調整を行い実施する必要がある。

このようなことから令和元年度は、フレイル予防の総合的な整理を行うとともに、保健部門と介護部門が連携し「身体的フレイル予防」に着目した事業をイチオシ事業として報告する。

なお本報告書にかかわる集計・分析は統計処理ソフト（IBM SPSS ver.23）を用いて、三芳町健康長寿事業の実施時に、有識者から学んだアドバイスのもと全て担当職員がおこなった。また今年度は事業の企画内容等について、三芳町健康づくり推進条例第 8 条に基づく三芳町健康づくり推進会議の会長や委員のアドバイスは得たものの、会議において議題とはならなかった。



様式 1

(2) 契機

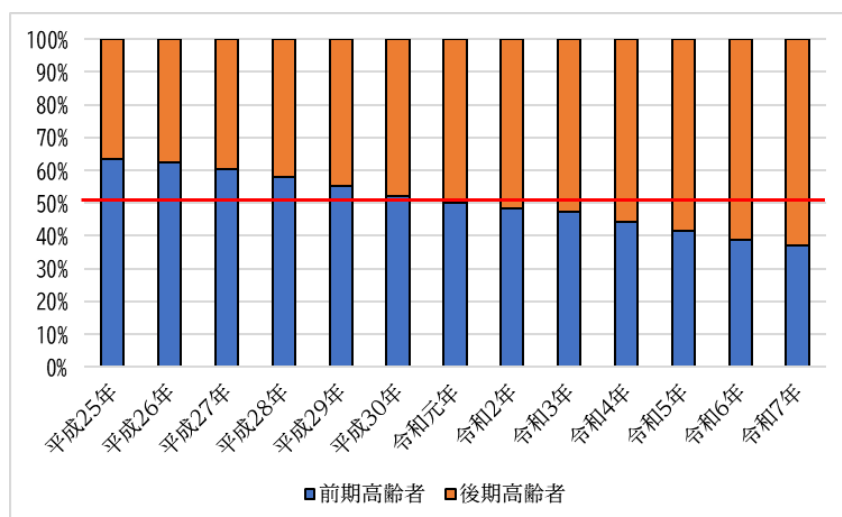
(ア) 高齢者人口の変化

65歳以上高齢者の人口は年々増加しており、平成27年度には10,000人を超えている。住民基本台帳による人口推計によると、令和3年をピークに減少傾向となる見通しである。

(イ) 後期高齢者人口割合の増加

65歳以上75歳未満の前期高齢者、75歳以上の後期高齢者の区分で見ると、平成30年までは前期高齢者の比率が過半数を占めているが、令和元年はほぼ同じに、令和2年度以降は比率が逆転するとともに、今後も後期高齢者の比率は増加することが予想される。

前述(ア)のように、高齢者人口は減少傾向となる見通しとなるものの、団塊の世代が75歳以上となる令和7年は、後期高齢者の比率が約60%を超える見通しとなっている。



(ウ) 高齢福祉事業（ふれあいセンター）におけるインフラの活用

高齢福祉事業の一環として、三芳町福祉課では「ふれあいセンター事業（老人福祉センター）」を実施している。ふれあいセンター事業は、高齢者が健康で明るい生活を営むことが出来るよう、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等の各種事業を実施しており、運営及び管理は社会福祉協議会及び社会福祉法人へ委託し実施している。

三芳町健康長寿事業では、高齢者が集まりやすい施設である「ふれあいセンター」の協力を得て「カラダステーション事業」を引き続き実施し、現在も体組成計、血圧計、握力計など健康づくりに関する機材を設置し、高齢者がいつでも測定できる環境を整備している。

令和元年度は、高齢者を対象とした健康づくり事業の一環として、「運動を中心とした健康教育事業」「看護師による健康相談事業」「健康長寿サポーター事業」を実施した。

様式 1

(エ) 介護予防事業（いもっこ体操）におけるインフラの活用

いもっこ体操とは、10数年前に医療機関に勤務する理学療法士、民間のスポーツ施設の健康運動指導士、住民組織が協力してつくりあげ、筋力アップを目的としDVDにまとめたあげた約90分の体操である。現在この体操は町内12ヵ所の集会所や公民館で毎月1回以上開催され、いもっこサポーター養成講座を修了した住民約60人が主体となって運営する事業である。登録している住民は町内12ヵ所どの会場を利用することも可能であることから、地域を超えた仲間たちと実施することもできる。

いもっこ体操の場の活用は、筋力アップ効果に加え住民運営のつどいの場としても、高齢者の閉じこもり予防の効果が望めると考えている。

令和元年度は通常の事業に加え「体力測定事業」を実施した。

(オ) 三芳町健康長寿事業におけるサーキットトレーニングプログラムの開発

三芳町健康長寿事業で実施した筋力アップ講座では、参加者の体力測定結果の前後比較を評価に用いた。この結果、筋力アップ講座で実施したトレーニングプログラムを、参加者が日々実施したことで下肢筋力アップを望むことが出来た。

このトレーニングプログラムのうち、住民にとってわかりやすく実践しやすいトレーニングメニューを民間企業と一緒に構築しチラシとして作成した。



様式 1

(3) 内容

事業名	身体的フレイル予防事業 ・筋力アップ講座 ・カラダステーション ・いもっこ体操
事業開始	平成28年度の継続
事業概要	・筋力アップ講座 下肢を中心とした筋力トレーニング等 ・カラダステーション事業 高齢者が集うふれあいセンターにおいて健康教育の実施 ・いもっこ体操 椅子に座って行う筋力アップの体操や脳トレ体操などをサロン形式で行う。
【参考】	埼玉モデル推奨プログラム 筋力アップトレーニング

	令和元年度	【参考】平成30年度
予 算	一般会計予算額 5,101千円 ・報酬 149千円 (委員報酬) ・共済費、賃金 1,356千円 (臨時職員賃金、社会保険料等) ・報償費 90千円 (講師謝礼、臨時職員賞与) ・需用費 118千円 (消耗品) ・役務費 83千円 (郵送料) ・委託料 4,661千円 (筋力アップ講座・カラダステーション委託料等)	一般会計予算額 6,101千円 ・報酬 50千円 (委員報酬) ・共済費、賃金 2,888千円 (臨時職員賃金、社会保険料等) ・報償費 200千円 (講師謝礼、臨時職員賞与) ・需用費 50千円 (消耗品) ・役務費 41千円 (郵送料) ・委託料 2,872千円 (筋力アップ講座委託料等)
参加人数	参加見込み人数 (実績は後述) 6,250人 ・筋力アップ 150人 ・カラダステーション 450人 ・いもっこ体操 5,650人	500人
期 間	平成31年4月～令和2年3月	平成30年4月～平成31年3月
実施体制	健康増進課健康支援担当を中心に、地域包括支援センター、福祉課、社会福祉協議会と連携し実施。	健康増進課健康支援担当を中心に、地域包括支援センター、福祉課、社会福祉協議会と連携し実施。

※介護保険特別会計の予算は除く

(ア) 介護予防・日常生活支援総合事業&健康増進事業ガイドブックの作成・送付

三芳町地域包括支援センターと連携し、「介護予防・日常生活支援総合事業&健康増進事業ガイドブック」を作成し、介護認定を取得していない65歳以上の高齢者約9,000人を対象に個別通知し事業の周知を行った。

介護部門と保健部門の事業をあわせて周知を行うことで、住民個人が自身の状態に応じた内容の講座を選択できる。

※ ガイドブックは別添

(イ) サーキットトレーニングプログラムを活用した筋力アップ講座の実施

1) 実施方法

筋力アップ講座は1コース6日間全3コース設定した。プログラムは全コースとも教室前後における体力測定の実施し、体力結果をもとにしたトレーナーのアドバイス、毎日行うプログラムの提供、体力測定結果を比較できる資料の配付と説明を日本健保株式会社に委託し実施した。

対象者については全3コースを下記のとおり分けた。

1コース目：広報・チラシによる周知（一般の希望者）

2コース目：昨年度「体力測定会」に参加した者

3コース目：要介護認定を受けていない高齢者

2) 参加人数

全3コースの参加人数は126人（男性38人、女性88人）、延べ601人だった。参加者の平均年齢は男性74.4歳、女性73.6歳だった。

3) 分析方法

この講座は前後において、開眼片足立ち、握力、長座体前屈、Timed Up&Go Test（歩行時間・歩行速度）、CS30の6項目の体力測定を実施した。これらの項目ごとに分析を行う。分析方法は事業に参加した126人のうち前後の記録を得られたもの男性29人、女性52人を分析対象とし、測定項目ごとに事業開始前と終了後の2群間について前後の比較検討を行った。統計解析はIBM SPSS ver. 23を使用し統計的有意水準は5%とした。連続変数は正規性が見られた項目は対応のあるt検定、正規性が見られない項目はWilcoxonの符号付き順位和検定を行った。なお分析は担当職員が行った。

4) 結果・考察

男女別の測定結果は次の表のとおりである。男女ともに下肢筋力の指標となるTimed Up&Go Test（歩行時間・歩行速度）、CS30において有意な差がみられた。

この事業は、平成28年度から全ての年度で実施し統計処理・分析を行ってきた。その結果、全ての年度において今回と同様の傾向がみられている。このプログラム内容は、高齢者の下肢筋力アップに有効であることが改めて実証することができ、引き続き多くの住民が参加できる方法を検討しながら広げていく必要がある。

【男性】							
項目	人数	講座開始前		講座終了後		P値	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
握力_右腕	(kg)	29	36.35	5.16	37.16	4.80	0.143
握力_左腕	(kg)	29	34.89	4.70	35.28	5.05	0.536
開眼片足立ち_右脚	(秒)	29	83.72	42.98	80.86	45.38	0.596
開眼片足立ち_左脚	(秒)	29	78.45	41.45	86.45	40.46	0.087
長座体前屈	(cm)	29	34.79	8.28	36.74	6.89	0.033
TUG_歩行時間	(秒)	28	4.94	0.64	4.53	0.46	0.000
TUG_歩行速度	(m/秒)	28	1.69	0.16	1.82	0.20	0.001
CS30	(回)	29	27.41	5.93	31.86	4.96	0.000

【女性】							
項目	人数	講座開始前		講座終了後		P値	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
握力_右腕	(kg)	52	23.80	4.03	24.07	4.05	0.235
握力_左腕	(kg)	52	21.41	3.90	21.98	4.10	0.018
開眼片足立ち_右脚	(秒)	52	80.37	43.98	83.29	41.52	0.382
開眼片足立ち_左脚	(秒)	52	68.50	40.36	80.73	42.58	0.004
長座体前屈	(cm)	52	35.09	8.92	36.65	8.13	0.019
TUG_歩行時間	(秒)	52	5.41	0.67	4.88	0.65	0.000
TUG_歩行速度	(m/秒)	52	1.59	0.17	1.73	0.20	0.000
CS30	(回)	52	26.31	5.68	31.33	5.47	0.000

(ウ) カラダステーション事業の実施

三芳町健康長寿事業の継続事業である。60歳以上の方の健康づくり支援のために「体組成計」「血圧計」「握力計」を設置している。利用登録後に貸与する歩数計と個人個人に発行する健康カルテをもとに、好きな時に来館し、測定・記録をとることが出来る。また登録者は次の講座に参加することが出来る。11月末現在のカラダステーション新規登録者は24人（男性9人、女性15人）となり、三芳町健康長寿事業からの登録累計者は664人（男性181人、女性483人）となった。

① らくらくトレーニング

コンディショニングを中心とした運動を行う講座である。対象者はからだステーション登録者で開催日程は4日間（10/18、11/15、1/24、2/28）、1回の時間は1時間30分、定員は各日程30人とした。11月末現在2回の講座を開催し、参加者は52人（男性7人、女性45人）であった。

② ゆるヨガ

ゆるやかなヨガをテーマに、高齢者のだれもが体験することが出来る運動プログラムである。対象者はからだステーション登録者で開催日程は毎月第4木曜日（12月は実施なし）、1回の時間は1時間30分、定員は各日程30人とした。11月末現在7回の講座を開催し、参加者は195人（男性10人、女性185人）であった。

③ 健康長寿サポーター養成講座

ふれあいセンターを団体利用する「老人クラブ連合会」の会員を対象とし地区ごとに養成講座を行った。11月末現在講習参加者は468人（男性209人、女性259人）であった。

(エ) いもっこ体操の実施と現状把握

いもっこ体操は、介護予防普及啓発事業の一環として、地域住民ボランティアが主体となり町内12カ所の集会所や公民館で開催している。申し込みは不要であり、開催日の開催時間に会場へ来ればよい。運営主体となるボランティアは「いもっこ体操サポーター養成講座」を受講した人であり、高齢者の社会参加・いきがづくりも目的に含んでいる。養成講座では、サポーターの役割や体操を行う上での効果的な姿勢、高齢者の低栄養問題、オーラルフレイル等、医療機関に勤務する理学療法士、民間のスポーツ施設の健康運動指導士、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職がアドバイスをを行う講座である。サポーターは、いもっこ体操に参加する住民と地域包括支援センター職員との橋渡し役として重要な役割を担っている。

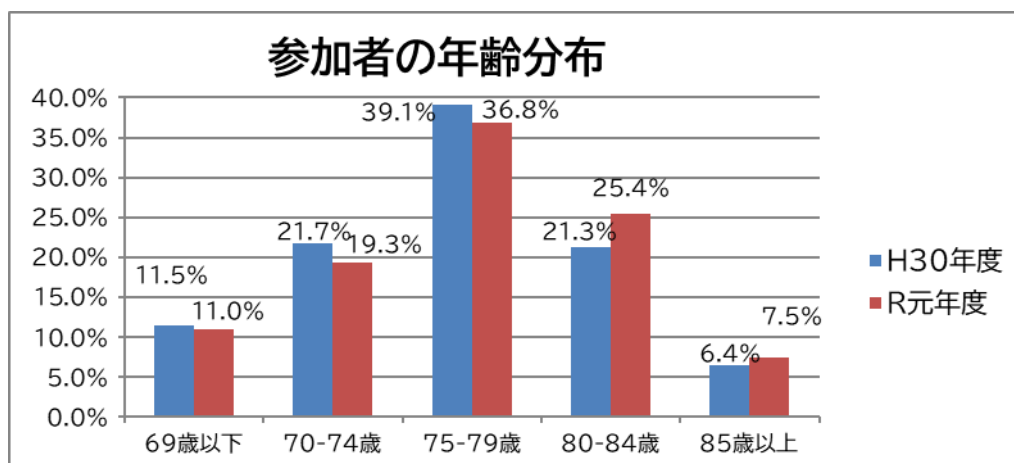
平成30年度の実績は159回延べ5,509人が参加した。令和元年度は開催回数162回延べ5,650人を目標に開催している。当町における介護予防施策において重点事業に位置付けている。今回、三芳町健康長寿事業の成果をもとに、いもっこ体操事業において、いもっこ体操サポーターの協力のもと体力測定（CS30）、アンケート調査を行った。

① 参加者（アンケート回答者）の人数及び性別

今回アンケートを実施したのは男性19人、女性212人、性別未記入12人の計243人である。男性が7.8%、女性が87.2%と女性が多くなっている。また、未記入を除いた男女の割合は、男性が8.2%、女性が91.8%となっており、平成30年度の男性9.7%、女性90.3%と比較すると男性の割合がやや少なくなっている。

② 参加者の年齢区分

参加者の年齢を見てみると、75～79歳をピークに参加者が多くなっていて、80歳以上では、徐々に参加者が少なくなっている。昨年と比較すると、79歳までは参加者の割合が減少しているのに対し、80歳以上では参加者の割合が増加している。このことから、参加者の高齢化が少しずつ進んでいることがうかがえる。

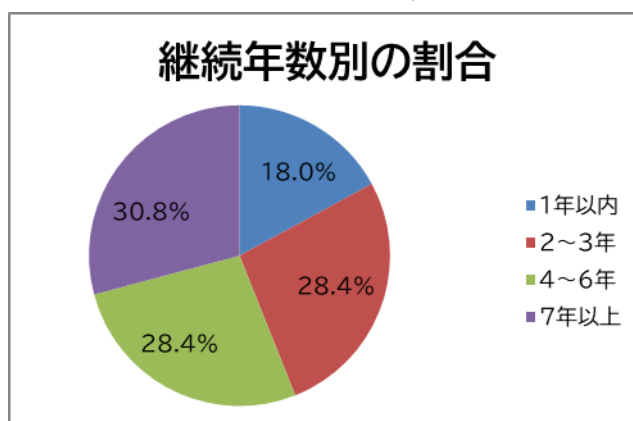


③ 参加の目的

いもっこ体操への参加目的(複数回答可)を見てみると、「運動の為」が169人と最も多く、次いで「友人との交流」「脳トレ・手遊び」となっている。その他の内容として、「一日のメリハリをつける為」…2人、「楽しみの為」…2人、「民生委員として地域の高齢者の状況を知るため」…2人、「ボランティア活動の為」…2人、「外出の機会を作るため」「ストレス発散の為」…各1名という意見があった。

④ 継続年数

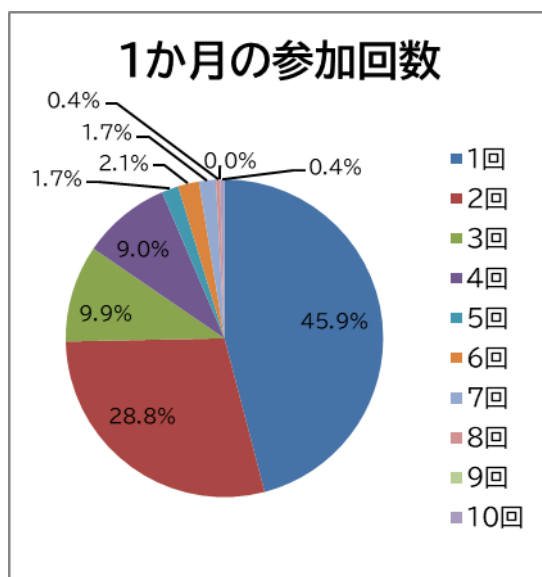
いもっこ体操への参加の継続年数を見ると、7年以上が30.8%と最も多く、次いで2～3年、4～6年が28.4%となっている。継続年数が長い人が増えており、新しい参加者の割合がやや減っていることがわかる。



⑤ 1カ月の参加回数

いもっこ体操への1か月参加回数を見てみると、1回が107名(45.9%)と最も多く、次いで2回が67名(28.8%)、3回23名(9.9%)となっている。最も参加回数の多い人は10回となっている。また、平均参加回数をみてもみると2.10回となって

様式 1
いる。



⑥ 継続年数と参加回数

いもっこ体操の継続年数と1か月参加回数を見てみると、継続年数が長くなる程いもっこ体操への参加回数も増加している。このことからいもっこ体操への参加をうながすことが閉じこもり予防につながるということがうかがえる。

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	合計	平均
1年以内	21人	13人	1人	2人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	38人	1.7回
2～3年	28人	18人	4人	6人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	57人	1.9回
4～6年	29人	11人	9人	4人	3人	2人	1人	0人	0人	0人	59人	2.2回
7年以上	22人	17人	7人	9人	1人	2人	3人	0人	0人	1人	62人	2.6回
合計	100人	59人	21人	21人	4人	5人	4人	1人	0人	1人	216人	2.1回

⑦ CS30の結果

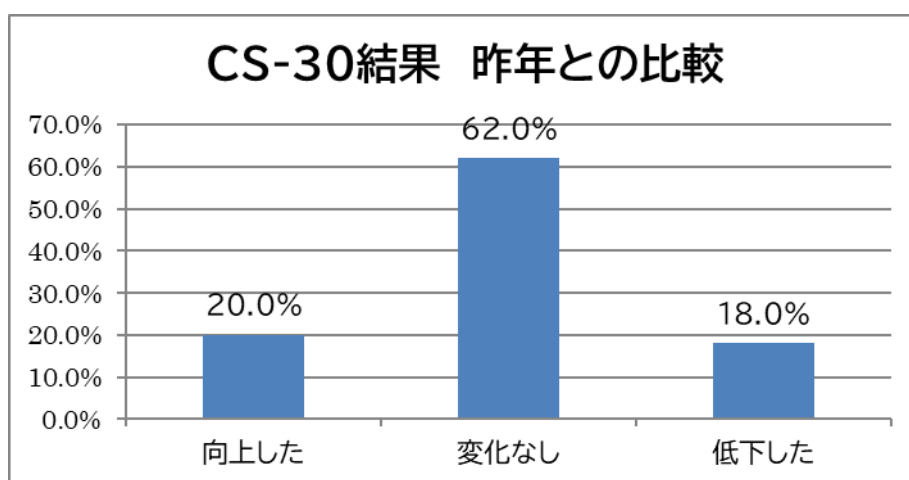
いもっこ体操参加者を対象に、体力測定項目としてCS30を実施した。実施者は192人だった。この結果を年齢性別毎の評価基準値に当てはめてみると「優れている」が70人(36.5%)と最も多く、次いで「やや優れている」が56人(29.2%)だった。このことからいもっこ体操参加者のうち、体力測定を実施したものは比較的下肢の運動機能は高いことがうかがえた。その一方で、当日腰や膝に痛みのあるもの、体調のすぐれない者は、CS30の実施に不安のある者は未実施だったことから、足腰の弱い「やや劣っている」「劣っている」に当てはまる人が少なく出たとも考えられる。

また、昨年もいもっこ体操の体力測定でCS30を実施していて記録が残っている者で昨年と比べて評価が「向上した」人、「変化なし」の人、「低下した」人の割合

様式 1

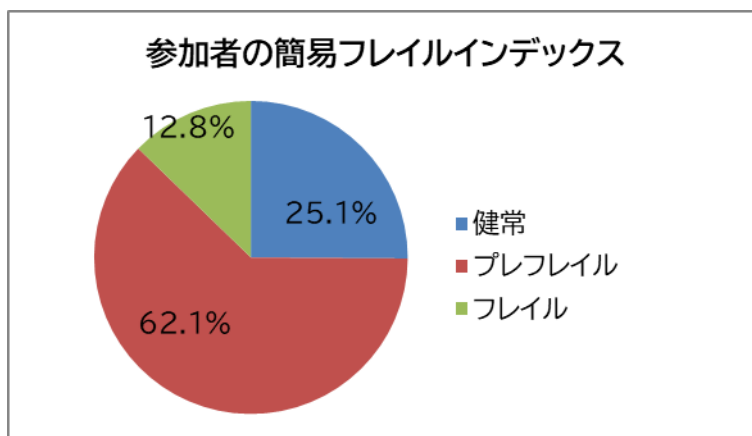
を見てみると、「変化なし」が62.0%と最も多く、続いて「向上した」が20.0%、「低下した」が18.0%であった。よっていもっこ体操は体力を向上させるほどの負荷はないが、体力維持に十分な効果があるのではないかと推測できる。

	全体			優れている			やや優れている			ふつう			やや劣っている			劣っている		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
64歳以下	1	4	5	0	1	1	0	2	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0
65-69歳	0	15	15	0	1	1	0	4	4	0	6	6	0	3	3	0	1	1
70-74歳	1	39	40	0	10	10	0	15	15	1	11	12	0	3	3	0	0	0
75-79歳	7	63	70	2	31	33	2	19	21	0	11	11	2	2	4	1	0	1
80-84歳	6	43	49	0	20	20	2	11	13	3	10	13	1	2	3	0	0	0
85歳以上	2	11	13	0	5	5	1	0	1	0	2	2	0	3	3	1	1	2
合計	17	175	192	2	68	70	5	51	56	4	41	45	4	13	17	2	2	4



⑧ 参加者の簡易フレイルインデックス

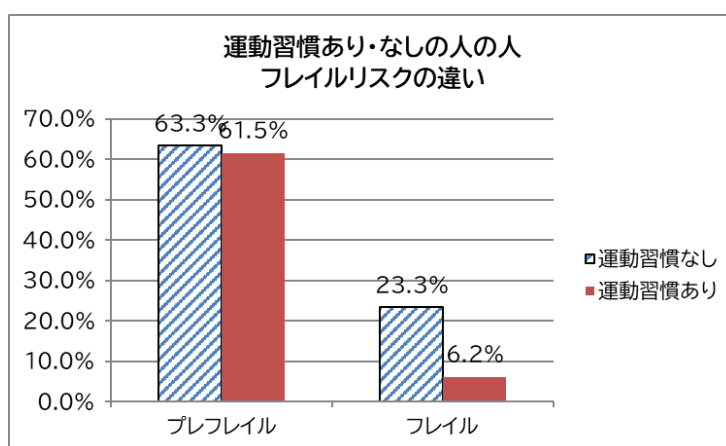
いもっこ体操参加者に簡易フレイルインデックスアンケートを実施したところ、以下の結果となった。簡易フレイルインデックスの質問項目5つのうちひとつも該当しなかった人を「健常」、1～2つ該当した人を「プレフレイル」、3つ以上該当した人を「フレイル」とすると、「プレフレイル」に該当する人が151人(62.1%)と最も多く、次いで「健常」に該当する人が61人(25.1%)となっており、「フレイル」に該当する人は31人(12.8%)であった。



⑨ 運動習慣と簡易フレイルインデックス

運動習慣の「なし」「あり」と簡易フレイルインデックスの「健常」「プレフレイル」「フレイル」に当てはまる人の割合をみると、「プレフレイル」では運動習慣がない人が63.3%であるのに対し、運動習慣がある人は61.5%だった。「フレイル」では運動習慣のない人は23.3%であるのに対し、運動習慣のある人は6.2%だった。また運動習慣がない人とある人で「健常」にあてはまる人の割合は、運動習慣がある人は32.3%であるのに対し、運動習慣がない人は13.3%だった。

運動習慣のある人ほどフレイルを予防できており、フレイル状態に陥っていないことがわかった。



(4) 事業効果

(ア) 三芳町健康長寿事業実施の効果

埼玉県の補助を得て、三芳町健康長寿事業を3ヵ年実施できたことにより効果的な健康教育事業を検討することができた。これは住民から得られたデータや情報を、有識者のアドバイスにより担当職員が様々な角度から分析することにより構築できた

様式 1

ことでもある。この結果をもとに、高齢者が参加する事業において同様の視点をもった教室運営を検討することが可能となった。

(イ) 福祉・介護・保健の連携による事業の実施

三芳町健康長寿事業の参加者の平均年齢を考えると、医療費の効果に加え介護予防の効果も重要な視点であることが出来る。また前述のとおり高齢化率が28%を超え、なお後期高齢者の割合が5割を超えてきていることから、当町において高齢者の健康づくりは重要である。

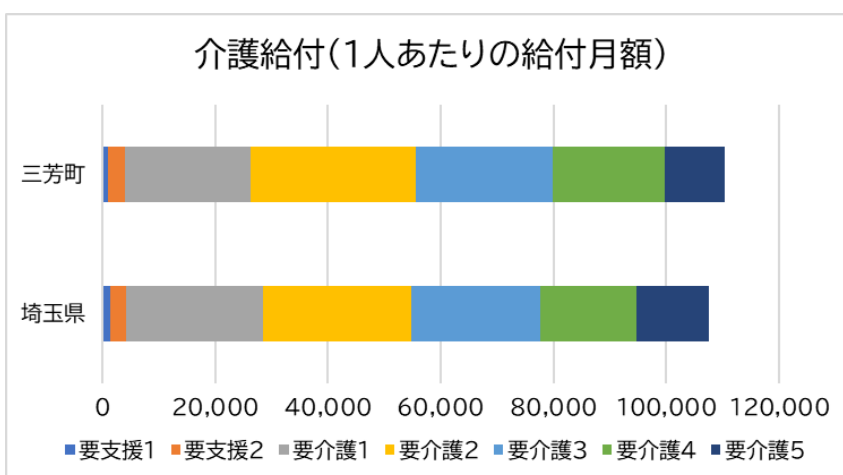
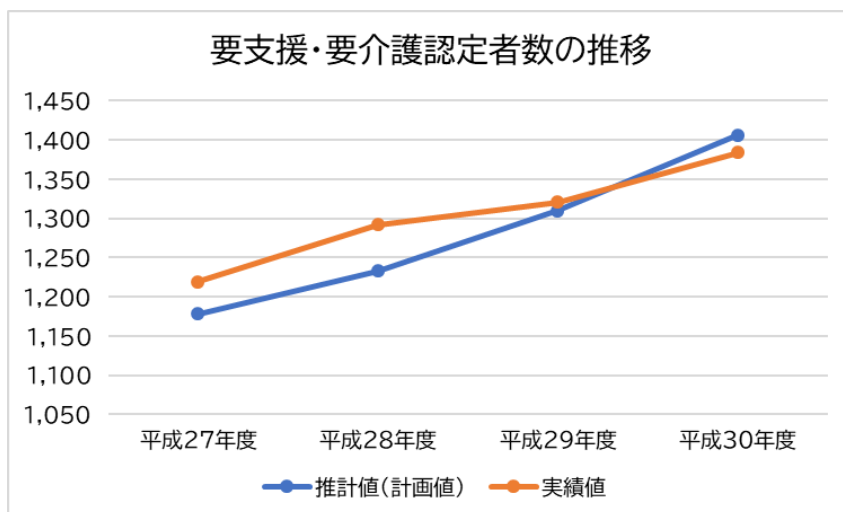
高齢者に関わる様々な事業は、それぞれの担当課において、数多くプログラムされていることから、連携を強化し実施することができたことが事業効果として捉えることが出来る。

(ウ) 地方自治体にとっての効果

介護保険における給付実績と計画値の比較を行った。まず介護保険認定者の推移については、第6期計画推計値では平成27年度1,178人、28年度1,233人、29年度1,310人、30年度1,406人に対し、実績値では平成27年度1,219人、28年度1,292人、29年度1,321人、30年度1,384人となっており、平成30年度は推計値に対し実績値が下回った。

一方介護サービスの給付費について、介護給付費については3カ年の執行率がおおむね80%を超えているものの、介護予防サービス等の給付費は62%だった。これは平成29年度より介護予防・日常生活支援総合事業がはじまり介護予防訪問介護、介護予防通所介護が移行したことが主な要因として考えられるが、平成27年度から平成28年度においても推計値と実績値に差がみられた。

しかし、受給者1人あたり給付月額（在宅サービス）は、埼玉県平均を上回っている。受給者の介護度別の比較においても、要支援2、要介護2、要介護4の給付月額が埼玉県平均より高い傾向を示している。



(5) 成功の要因、創意工夫した点

(ア) 連携体制の構築

当町における高齢者施策は、3課4担当に分かれていることから、庁内の連携体制の構築は、フレイル予防対策を進めていくうえで重要なポイントとなった。円滑にそして効果的に事業を実施していくうえで、健康増進課健康支援担当（保健）を中心に、地域包括支援センター（介護保険）、福祉課（高齢福祉）、住民課保険年金担当（国民健康保険）、社会福祉協議会の連携強化を図ってきた。今年度からは健康増進課健康支援担当、地域包括支援センター、住民課保険年金担当の連携会議を立ち上げ実施している（実績は3回）。またカラダステーション事業を実施しているふれあいセンターの職員とは随時情報交換を行っている。これらを繰り返すことにより、職員間の連携が強化された。

このように、高齢者に対する施策や事業内容、実施方法などを関係課が共有することで、フレイル予防に着目した事業を拡大することが可能となった。

(イ) 実施事業における継続的な情報収集、データ分析の実施

高齢者の状況や健康教育等の事業における参加者の状況について評価・分析を重ね

様式 1

たことで、よりターゲットを明確にした事業を実施することが出来た。また介護サービスにおける給付費の変化等の集計・分析したデータを多課連携により共有できたことも要因である。

(ウ) ターゲットを明確にした事業の実施

人口の5%が参加した三芳町健康長寿事業を実施したことにより、事業参加者や教室参加者の状況が把握でき、効果的な事業を実施するうえで重要な点を捉えることが出来た。これにより得られた成果や前述の「(2)契機」のとおり、高齢者施策に焦点をあて、フレイル予防に着目した事業を実施することが出来た。

(エ) カラダステーション事業の拡大

三芳町健康長寿事業の成果の一つとして、みよしふれあいセンターに「三芳カラダステーション」を設置することが出来たことである。ふれあいセンターとは、町内に居住する高齢者の方々が健康で明るい生活を過ごすために、健康の増進・レクリエーションを通じて楽しみながら仲間づくりを目指した施設であり、町(福祉課)が社会福祉協議会へ運営委託を行なっている。なお平成29年度のふれあいセンター利用実績は13,599人(個人利用8,101人、団体利用5,498人)だった。

三芳カラダステーションとは、施設を利用する高齢者を対象に、いつでもからだの状態を計測できる環境として、計測スポット(体組成計、血圧計、握力計)の管理と、健康長寿に関する講座、健康相談等の実施について、町(健康増進課)が委託し行なっている。

このように高齢者が集まり、体組成計や血圧計の機器の設置も可能、職員が常駐している施設において、高齢者の健康づくりの一助となる事業を実施することが出来たことも成功の要因である。

(6) 課題、次年度に向けて

(ア) 新たなフレイル予防事業への展開

フレイルを予防することは日常生活においてサポートが必要な要介護状態となることを防ぐ期待がある。フレイルには「身体的な要素」「精神的な要素」「社会的な要素」が関わっており、多面的に総合的に働きかける必要があるといわれている。そしてフレイルの予防には「栄養」「運動」「社会参加」が重要である。

三芳町健康長寿事業の評価から「運動」を中心とした効率的な事業の確立を目指し実施してきた。そして介護予防事業においても体力測定等を実施し、参加している住民が励みとなるような内容を取り入れてきた。また事業内容をまとめることで、連携体制を構築・強化する部門への資料とすることで、考え方を共有することが可能となった。

これらに加え、昨年度より「栄養(食育)」「社会参加」について検討を重ねてきた。「栄養(食育)」については、カラダステーションを中心に管理栄養士やボランティアを加え、栄養教育の実施を予定している。また「社会参加」については、すでに介護保険制度の枠組みで実施している「ささえあい・みよし(三芳町生活支援体制整備推進協議体)」が、平成30年度の冬に「いつでも行ける楽しめる集いの場

様式 1

map2018」を作成した。これはささえあい・みよしの活動情報に加え、「住民の方が気軽に集い、知り合いや仲間づくりを行える『居場所』」の情報提供として、町内で活動しているサロンの情報を1冊の冊子としてまとめたものである。

このようなことからフレイル予防に着目した高齢者施策の実施を目指す。

(イ) 介護予防給付費への効果

参加者個々の介護予防給付費の変化を見ていくことは困難である。しかし前述のように「要支援・要介護認定者数の推移」や「介護給付費の変化」を見ていくことは重要である。今後も介護保険計画や給付実績のデータをもとに検証を続けていく。

(ウ) 高齢者の保健事業と介護予防等との一体的な事業の実施

令和2年度より高齢者の保健事業と介護予防等との一体的な実施に関する事業が広域連合から委託される。すでに庁内関係部門の会議を設置していた本町では、事業計画書の作成までは至っていないものの状況の共有は図っている。また本報告の事業内容を基盤に、次年度以降はKDBシステムのデータを活用した事業の実施を目指す。

(7) 健康寿命

年度	男	順位	女	順位
H29	17.38 歳	45 位	20.25 歳	40 位
H28	17.29 歳	42 位	20.12 歳	44 位